

乳がん高度検診・治療センター NEW-す NO.50

2018.7

乳がん白書2018

乳がん高度検診・治療センターニュースで乳がんの疫学（統計的なデータ）をとりあげるのは、「数字でみる乳がん」（No.23、2016年4月）以来となりますが、今回は「乳がん白書2018」として最近の動向をお知らせします。出典は主として国立がん研究センターがん情報センター「がん登録・統計」（http://www.ganjoho.jp/reg_stat/statistics/dl/index.html）ですが、それ以外のものは（ ）内に示しました。

とは言え女性のがんのトップであることは変わりなし

■ 増え続けていたがやっとな近年横ばいに

乳がんはわが国で増加しているがんのひとつで「2017年のがん統計予測」によると2017年に乳がんにかかった人の数は89,100人（女性のみ；あくまで予測値）と推定されています。近年やっとな増加傾向に歯止めがかかりほぼ横ばいの状況となりましたが女性の罹るがんの一位であることは変わりません。日本人女性の実に11人に1人が生涯のうちに乳がんにかかるといわれていますので、まさにコモンディゼース（ありふれた病気）といえます。

とくに日本人の乳がんは40歳代後半にピークがあり、比較的若い年齢層のがんであるのが特徴で社会的にも影響が大きいわけです。

■ 死亡数もやっとな横ばいに

「2017年のがん統計予測」によると2017年に乳がんで亡くなった方は14,400人（女性のみ；予測値）と想定されています。実数はまだ公表されていませんが、死亡数もようやく増加の一途を脱して横ばいに転じてきました。女性のがん死亡のうちでは臓器別に、大腸、肺、膵臓、胃、に次いで第5位です。罹る人がもっとも多いのに死亡率で5位ということは、乳がん全体としては比較的治りやすいがんということでもあります。

■ 乳がん検診受診率もようやく向上

国民生活支援調査（厚生労働省）によると2013年に40～69歳での乳がん検診受診率は43.4%（資料：国民生活基礎調査による推計値）であり年々向上しています。ただ、欧米での80%以上という受診率に比べるとまだ低いのが実情です。都道府県別の検診受診率を見てみると大阪府はいつもワースト5に入りますが、貝塚市は大阪府下では高率であり喜ばしいことです。

■ 多くは治りやすいがん

乳がんは早期の段階に発見できればなおりやすいがんの部類に入ります。検診や啓発活動の効果もあって、今や、乳がんの約半数がI期や、それ以前の0期（非浸潤性乳管がん）の段階で見つかっており、このような早期例では治療により大部分が治癒します。

早期発見により治りやすいがんですので、マンモグラフィ検診や自己検診の励行により乳がんから身を守りましょう。